

琉球王朝末期、佐渡山安健が描いた「馬の図」  
 おもろまちの県立博物館・美術館



# 王朝時代の絵寄贈 子孫、県立美術館に

## 佐渡山安健「馬の図」



琉球王朝末期に活躍した画家佐渡山安健の作品「馬の図」が1日、子孫の佐渡山安彦さんによって県立博物館・美術館に寄贈された。「馬の図」は「仲田青毛之図」とも呼ばれる。安健は琉球王朝時代を代表する五大画人の一人。国王の命で花鳥画を描いていた。

1978年7月に、安彦さんの父の安正さんが同館（旧県立博物館）に寄託。安彦さんは「沖繩戦で多くの文化財を喪失した沖繩の文化の振興に資してほしい」という思いから、今回の寄贈を決意した。

同館の白保台一館長は「ぜひ県民の皆さんに見ていただきたい」と語った。同作品は、2012年6月に開催する「新収蔵品展」で、一般公開される。